

# 特集 鉾山町の橋



濁川にさまざまな橋が架かる（間ノ山地区／明治41年～大正8年頃）



間ノ山地区（現在）



石造のアーチ橋（現在）

## 古写真の解説

間ノ山地区：明治期以降の鉾山施設が集中する場所。

- ①② 石造のアーチ橋：物資運搬のために、明治期に鉾山が設置した石橋。  
②は今もほぼ同じかたちで残る。
- ③ 木造の橋：文政9年（1826）の資料にも、ほぼ同じ場所に「板橋」があると記載されている。古写真には、この橋以外にも、木造の橋のようなものが見られる。
- ④⑤ 搗鉾場：明治期に完成した鉾山の製錬施設。
- ⑥ ズリ山：金銀を含まない岩石（ズリ）が積み上げられた山。現在、佐渡金山の第3駐車場がある辺り。

川辺の暮らしを象徴する橋

皆さんは「相川」という地名の由来をご存知でしょうか。じつは、金銀山の開発が始まる以前の相川は「鮎川」という地名で、濁川に多くの鮎が見られることからその名が付いたそう（諸説あり）。その後、金銀山の開発が盛んになると、川から鮎が消え、地名も相川に改められました。相川では、大昔から「川」が人びとの暮らしのなかにあり、その存在も大きかったことがうかがえます。

私たちが生きていくうえで、水は欠かすことのできないものです。鉾山町相川においては、日々の暮らしだけでなく、鉾山の開発にも必要でした。相川の下町には5本の川が流れており、川は人々の暮らしにとけ込んでいます。川のある風景は下町ならではのものであり、その川に架かる「橋」は、川辺の暮らしを象徴する存在です。

相川  
あいかわらばん  
瓦版

第34号

2018年7月25日発行

《編集・発行》

佐渡市産業観光部

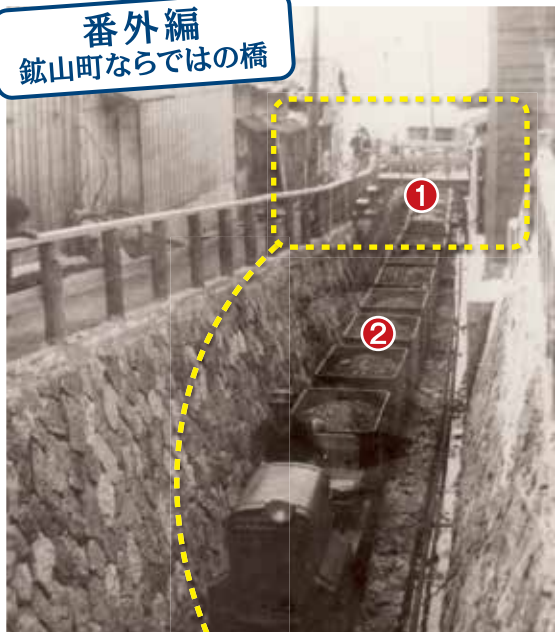
世界遺産推進課

電話 0259-63-5136

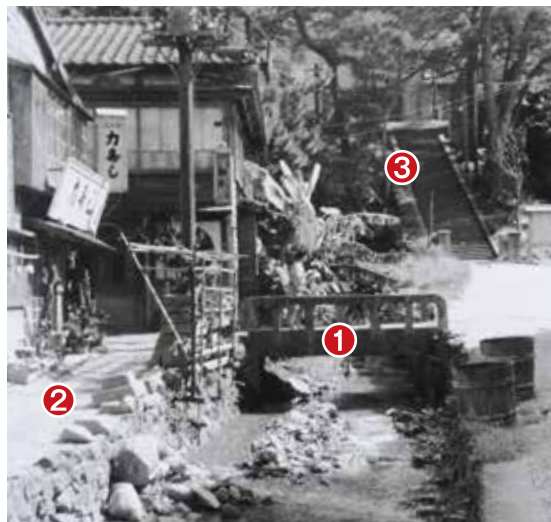
FAX 0259-63-6130



番外編  
鉾山町ならではの橋



● 浜石（鉾石）を運ぶトロツコの軌道に架かる橋（昭和初期）



● 間切川（赤川）に架かる将監橋（昭和30年頃）

生活風景にとけこむ何げない橋

特集 鉾山町の橋



ここで紹介する橋のほとんどは、江戸時代からほぼ同じ場所にあるものです。鉾山町の暮らしの変化に合わせて、橋もその形を変えてきました。

古写真の解説

- ① 軌道に架かる橋：トロツコ軌道にまたがるように架けられた橋で、橋の左端には階段がついている。橋の用途や構造は不明だが、道と道をつなぐための橋か、敷地や建物などへ入るための橋だと思われる。現在、トロツコ軌道は埋められ橋も撤去された。
- ② 浜石を運搬するトロツコ：海岸に堆積した鉾石（浜石）を採取し、トロツコで北沢まで運んだ。

● 橋にまつわる思い出話

トロツコが走るゴーッという音が聞こえてくると、近くにいた子供達は駆け足で軌道に架かる橋まで行き、橋の下を通過するトロツコを眺めたそうです。

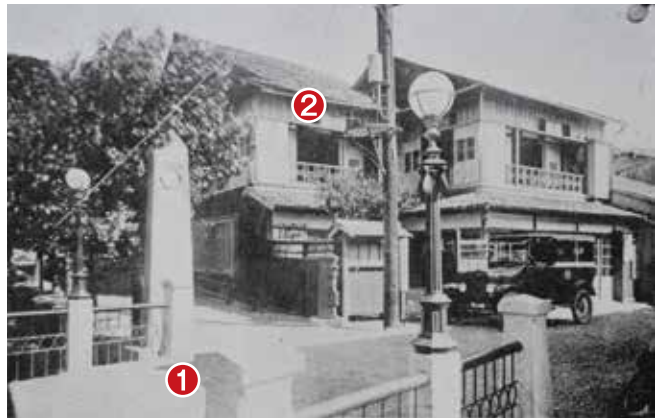
古写真の解説

- ① 将監橋：一丁目、二丁目、一丁目裏町、五郎左衛門町の4町の境にあたる場所に位置する。江戸時代、佐渡奉行所の船手役（御船の管理などをする役）の辻将監の屋敷が近くにあったことから、将監橋と呼ばれるようになったという（『佐渡相川志』）。古写真の橋はコンクリート製で、欄干は人の腰の高さほどある。後に、護岸がかさ上げされ、橋も架け替えられた。
- ② 和泉小路：辻将監と同じ船手役であった加藤和泉の屋敷がこの辺りにあったため、和泉小路という名が付いた（前掲書）。
- ③ 新潟県佐渡支庁：この頃は、階段の上に新潟県佐渡支庁があった。現在のあいかわ幼稚園がある場所。



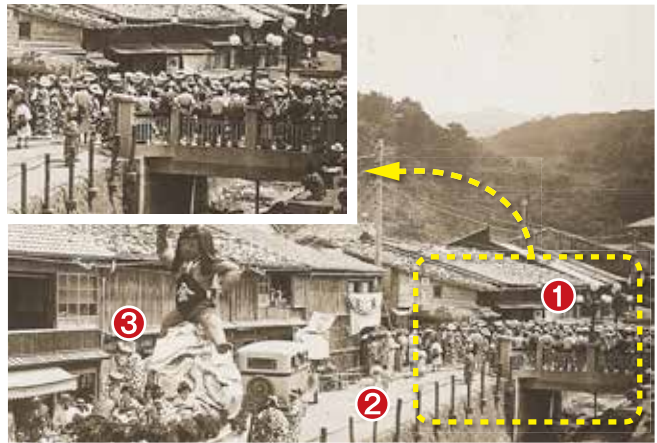
鉾山町の繁栄と近代化を象徴するモダンな橋

●間切川（赤川）に架かる橋（大正期）



古写真の解説 ①間切川に架かる橋：2ページで紹介した将監橋の手前にある橋。石造らしき束柱に金属製の手摺がかけられ、束柱の上にはモダンな街路灯が設置されている。付近には、時計塔と思われるオブジェや街路樹が見える。 ②たつみや（立身館）：相川二丁目にあった旅館で、古くは郷宿（訴訟や願いごとで近郷から奉行所へ出向く人が宿泊）であった。近代の相川を代表する旅館のひとつ。

●濁川に架かる橋（昭和初期か）



古写真の解説 ①濁川に架かる橋：間切川の橋と同じように、束柱の上に街路灯が設置されている。周辺に並ぶ伝統的な民家とは対照的な近代的なデザイン。 ②護岸の欄干：木製の柱に紐状の手摺がつく簡素な欄干。欄干の土台である切石が現在も残っている。 ③鉾山祭の山車：大きな鉾石（偽物）の上に金太郎が乗っている。 ●橋にまつわる思い出話 古写真にある橋は幅が狭く、バスが通過できるように橋が拡幅され、今の橋になったそうです。下町では、狭い道をバスが通過するため、住宅の軒をこすりながら走行していたといひます。

●海士町川に架かる御番所橋（大正〜昭和初期）



古写真の解説 ①御番所橋：下戸炭屋町の南端に番所があったことが、この橋の名の由来。この橋もやはり、モダンなデザインで街路灯がついている。金属製の手摺や街路灯がつく形式は、間切川と濁川の橋、御番所橋に共通しているが、そのデザインは橋ごとに異なる。 ②鉾山祭の民謡流し：笠をかぶった踊り子と、手ぬぐいをかぶった地方が見える。

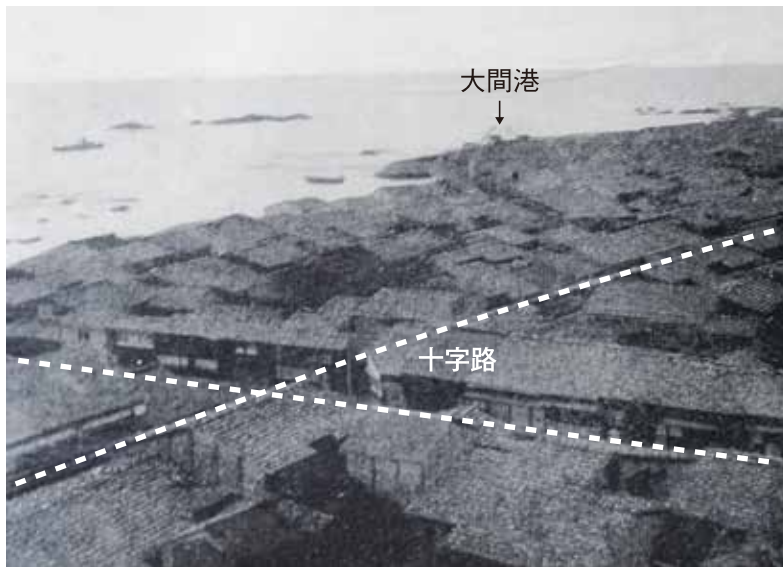
# 相川の今昔

## 大正期の下町北部

相川紙屋町・相川大間町・相川小六町・相川濁川町 ほか

古写真は、大正14年（1925）に発行された『佐渡案内写真大集』という書籍に掲載されている写真の1枚です。島内各地の名所や産業、旅館などを紹介する、今でいう観光ガイドのような書籍です。

濁川に沿って東西にのびる道と、紙屋町から小六町を南北に通る道が交わる十字路を中心に町並みが写され、海岸が埋め立てられる以前の様子がよく分かります。古写真の右上には、千畳敷や弁天崎もわずかに顔をのぞかせており、その手前には鉱山港として稼働中の大間港も確認できます。海には、船らしきものが何隻か見えます。まちなかに目を移すと、屋根は瓦葺屋根と板葺の石置き屋根が入り混じっています。今と大正時代の下町を、間違い探しのようによく見比べると、大正時代の建物の多くが今も残っていることが分かります。



大正期



現在

## 今月のにゃんじー

### 「かき氷 食べました」

うだるような暑さが続いています。  
こんなに暑い日には、キンキンに冷えたかき氷！  
にゃんじーのお気に入りにはブルーハワイ味です。  
食べた後に鏡の前で、舌が青くなっているのを  
確認するのが密かな楽しみです。



第35号

9月25日刊行予定